

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800275		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3-12		
自己評価作成日	平成29年2月11日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0175800275-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一法人が経営するグループホーム「おおきな家」や「ふるさとの丘」、デイサービスセンター「さくら」が参加する音楽療法を毎月第一、第三土曜日の午後実施し、交流の場を設けている。夏には「おおきな家」と合同で行っている夏祭りへ町内の方々をお招きし地域交流を図っている。また、ご近所の方々からは気軽にお声をかけていただけるなど地域と密着した関係を築けてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム みんなの家」は、近くに公園やスーパー、ドラッグストアなどもある自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。居間や食堂などの共用空間は清掃が行き届いた広々とした造りで、花や観葉植物などが飾られており、落ち着いた過ごせる家庭的な環境が整備されている。近隣に同法人運営のグループホームやデイサービス施設があり、日頃から協力関係を築きながら運営やケアに取り組んでいる。管理者を中心に職員間で情報交換し、入浴や排泄など利用者一人ひとりの残存能力を活かしながら適切な支援を行い、本人ができることを温かく見守り自立に向けて取り組んでいる。理事長と職員が話しをする機会が定期的にあり、各職員の要望なども伝えることができる体制が整えられている。受診支援も殆ど事業所に対応しており、主治医と関係を築きながら各利用者の健康情報を共有して適切な医療支援を行っている。理事長が作成した献立で、彩りが豊かでバランスの取れた美味しい食事を、盛り付けや器に配慮しながら提供している。居室は、使い慣れた家具類や馴染みの小物類を持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。職員の温かなケアと優しさは、各利用者と家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく自由に、ありのままに暮らしの喜びと自信をみんなと共に」を共通の理念に掲げ、目につきやすい場所へ掲示し、定期的に共通理解を深めるため唱和も行っている。	法人共通理念を事業所の理念として共用部分などに掲げ、申し送りや会議で年数回唱和している。全職員で理念を再確認し、地域との関わりを意識した事業所独自の目標の作成も検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、利用者様が行事等へ参加されたり、当ホームで開催します夏祭り等の行事へ近隣の方々をお誘いしたり、町内の清掃や花壇整備へ利用者様と共に参加し交流を図っている。また月に2回、ボランティアによる音楽療法を行っている。	地域の夏祭りに参加して神輿に参拝したり、獅子踊りなどを見学している。夏祭りのお供え物を戴いたり、老人クラブで製作した雑巾の提供を受けたこともある。買い物や受診の時に、地域の方と会って話をする機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等を行い、認知症というものの理解や支援の方法を地域の方々へ正しくお伝えできるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際や評価への取り組み、また非常災害時等について話し合い、サービス向上や安全対策に繋がるよう努めている。	近隣にある同法人事業所と合同で、感染症やターミナルケア、非常災害などをテーマにして年2回開催しているが、家族の参加は得られていない。今後は、参加できない方にも会議内容が分かるように議事録を更に充実させたいと考えている。	今後も家族に参加を呼びかけると共に、テーマに沿って事前に意見を聴き取り、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。また、議事録や会議内容を載せたお便りを家族に送付し、討議内容を周知するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は長沼町主催のサービス調整会議に参加し事例検討や情報交換を行いサービスの向上へ向けた協力関係を築けるよう努めている。	地域住民に認知症を理解してもらう方法について相談したり、災害時の対応や避難場所などについて話をしている。運営推進会議で、認知症に対する町のサポート体制についての情報提供を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ禁止行為について共通理解を持つよう努め、身体拘束ゼロを掲げ取り組んでいる。	「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を記載したマニュアルを整備している。年1回、資料を基に身体拘束や不適切な言葉かけなど、職員間で事例を出しながら内部研修を行っている。気になる言葉かけがあれば管理者がその都度指導したり、職員間でもお互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修等へ参加し知識を深め実践できるよう努めているが言葉づかいなど接遇に不適切な場面が見られる事もあり、更なる意識向上に努めていきたい。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を通じ、成年後見人制度等についての知識はあるが活用するに至るような事例はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には懇切丁寧を心掛け、理解・納得いただけるよう努めている。また、ご家族の不安や疑問へも耳を傾けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に利用者様の状態を伝えたり、ご意見、ご要望があれば都度検討し運営へ反映させられるよう努めている。	家族の来訪時に近況を話しながら、意見や要望を聴き取るようにしている。今後は個別の申し送りノートを活用して、家族の要望や職員の気付きを別紙に分かりやすく記入していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや業務の中で情報交換・意見交換を行い、業務に反映できるよう努めている。重要と思われることは口頭で伝える以外に連絡ノートを活用している。	参加できない職員の意見も事前に聴き取りながら毎月会議を開催し、利用者への対応などについて意見交換をしている。管理者は日頃から各職員と話をしている。理事長も随時要望や提案を聴き取り、職員の意向に沿えるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各事業所を回る中で直接的または管理者を通し間接的に職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会を設け、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われる長沼町主催のサービス調整会議や講習会に参加し、町内の介護事業所との意見交換、交流などを通じサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人や家族の方より本人の情報や周辺環境についてお聞きし、情報を踏まえた上で、ご本人が抱えている問題や要望を確認し、解消していけるよう支援することで、より良い関係を作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の方に同席して頂き、家族が抱えている困り事や要望を確認し、解消していけるよう支援することで、より良い関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等により早急な対応が必要な支援または長期的な対応が必要な支援かを見極め、他サービスの利用が必要か否かその都度、検討対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気を保てるよう、一方的な関係ではなく、一緒に物事に取り組めるような関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を支えるという目的のもと、職員だけが係わるのではなく、場合によっては家族の方にも一緒に係わってもらえるような関係づくりを目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく、友人や知人の来訪は支障がない限り少しでも多くの方に来て頂きたいという姿勢で取り組んでいる。外出についても、行きつけの美容室や理美容、買い物などの支援を行っている。	近所に住んでいた方や職場関係の友人が来訪する利用者もいる。友人と手紙のやり取りをしている利用者もあり、投函などを職員が支援している。職員と一緒に馴染みの店に買い物に出かけたり、家族と親族の結婚式に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係把握に努め、その関係を尊重しつつ孤立することがないように関係づくりを支援し、お互いに助け合う関係づくりをサポートしている。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居や病気等により入院となった場合など、環境が変わっても適切な支援が行われるようサポートに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の考え方や思い、暮らしへの希望について聞き取りを行ったり、日頃の会話や行動・反応、家族等からの情報などから把握するよう努めている。	素直な気持ちと言えるような声かけや環境づくりに配慮して、会話から思いや意向を把握している。「心身の情報シート」に職員も記入しながら、更に本人の現状把握に努めたいと考えている。	利用者の思いや意向を更に把握できるように、「課題分析シート」を活用して、趣味や嗜好などの項目を追加して定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分とは言えないと思うが詳細なアセスメントに努めておりサービス提供に反映させるべく努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や関係者と話し合い介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に職員間で検討して、3ヵ月ごとに介護計画を作成している。サービス担当者会議に家族や本人が参加することもある。「介護経過記録」に、サービス内容に沿った変化や課題が記録できるように書式を検討している。	介護計画の見直しに活かせるように、具体的なサービス内容に沿って評価を行うよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人共通の記録様式を用いているが、プランと連動させ記載しやすく見やすいものへの変更を現在検討中。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに応じて柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人のニーズに対応できるよう医療機関・福祉サービス等の把握、連携に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を尊重し継続して治療を受けられるよう支援しており、場合によっては訪問診療を活用し対応している。また、必要に応じて長沼町外の医療機関の受診も支援している。	受診は殆ど職員が同行しているが、遠方の病院などを家族と受診する時は、体調変化があれば書面で伝えている。受診内容は「医療経過記録」に個別に記録して、職員間で情報を共有している。	

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が配置されており、24時間のオンコール体制をとっている。職員により日常的に健康状態の把握に努め、必要時には連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入退院時や入院中には医療機関との連絡を密にし病状把握に努めている。また、日頃の通院時や訪問診療等を介しての情報交換を行い協力体制を築けるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	概略的にターミナルケアの方向性は策定されている。個々の状態に合わせた診療方針など、その時々で家族や医療機関・訪問診療と話し合いながら進めている。	「重度化・終末期ケア対応指針」を整備し、利用開始時に説明している。急変時や医療行為が必要になった場合は事業所として対応は難しくなるが、本人と家族の意向に沿って主治医の判断の下に看取りもやっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は急変時等に備えた初期対応についての研修を実施する機会が少なかった。今後、いつでも誰でも実践できるよう努めてきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しているが近隣の方々には参加いただけていない。地域運営推進会議等を通じ、緊急時の協力体制はできている。	日中の地震と夜間の火災想定して、年2回消防署の協力の下に避難訓練を実施している。近隣に避難訓練への協力を依頼しているが参加は得られていない。地震時に備えて、事業所内の危険箇所の確認とケア別の対応を再確認する予定である。	地域住民に避難訓練への参加を引き続き働きかけ、住民参加の下に避難訓練を実施するよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や尊厳、プライバシーに配慮した対応を心掛けているが、時折配慮に欠けた対応があり、その都度職員間で注意している。	職員の利用者への言葉かけや対応で問題があれば都度注意し、接遇等の勉強会も行っている。個人記録などは事務所で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、自己表示ができるような声掛けの工夫をしたり、表情の変化に注意を払うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程はあるが、個々の好みやペース、その日の体調等を考慮した上で、その人らしい過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る物を選んで頂いたり、入浴の際に着替えを用意して頂いたり、出来る限り自己決定の機会を設けるよう心がけている。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の咀嚼・嚥下状態を考慮した食事の提供を心がけている。また、食後の片づけや食材の下処理を手伝って頂くなど、いろいろな形での参加をして頂いている。	理事長が作る献立を基に利用者の好みに合わせて変更を加えている。利用者は下ごしらえや後片付けなどを手伝っている。おかずや食器も彩りが豊かで、職員も一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量の摂取状況をチェック、各個人の状況に応じて提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各個人の状況に合わせて口腔ケアの支援をしている。ただし、自立されている方の口腔状態の把握は十分でない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄のリズムを把握し、トイレにて排泄ができるよう声掛けなどの支援をしている。	全員の排泄チェック表を作成してパターンを把握し、誘導時は羞恥心に配慮し耳元で声かけしている。自力でトイレに行くことができる方は、見守りでの対応をしている。本人の状況に応じて、夜間のみ部屋でおむつ等の交換を行うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排便のリズムを把握、医療機関や訪問診療と相談しながら必要に応じ下剤等の調整を行いスムーズに排泄ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回午後からの入浴ではあるが、可能な限りご本人のタイミング、湯温で入浴されるよう配慮はしている。入浴を拒否されることもあるが、時間をずらすことで対応できる事もあり、極力入浴できるよう支援している。	日曜、水曜以外の主に午後の時間帯で各利用者が2回程度、入浴している。拒否のある方はおらず、一人で入る方は職員が見守りをしている。同性介助としたり、湯温を好みに合わせ、安心して快適に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の習慣やその日の状態に合わせて、休息がとれるよう医療機関とも連携しつつ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の内容、用法について理解に努め、服薬方法も状態に合わせて対応している。状態によっては主治医等に相談し調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持って頂けるよう声掛け等の対応をしている。自発的な行動も見られるようにはなってきましたが、もっといろいろな活動も可能と思われるため検討が必要。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り散歩等外出するよう支援している。また、買い物や理美容など要望に応じて対応している。ドライブなどの外出もできるよう努めている。	暖かい時期は日常的に近くの公園を散歩したり、スーパーやコンビニエンスストアに買い物に出かけている。外出行事は白鳥見物や観桜ドライブ、紅葉狩りなどがあり、冬季は外出行事が減るものの通院での外出が定期的にある。町の文化祭に知人の作品を見に出かけた方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は所持または預かり金という形で管理を行っている。それ以外の方は必要時に立て替え払い形式での物品購入等を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支障がない限り電話、手紙等での交流ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた生活を送れるよう環境（採光・室温・湿度）整備に努めている。	南に面した広い居間と食堂を中心に、居室や浴室、トイレなどが回廊式に配置されている。観葉植物やカラオケ、雑誌などが置かれ、壁には版画絵や手作りのカレンダーを飾っている。パネルヒーターや加湿器で温度、湿度を調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、一人での時間、あるいは他利用者様と楽しめるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを持ってきて頂き、少しでも安心して落ち着いて生活できるよう支援している。	居室入口に個々の好みの写真を飾り、暖簾も設置している。室内にはテレビやベッド、タンス、戸棚、人形など馴染みのものが置かれ、小鳥を飼っている利用者もいる。壁もカレンダーや写真などを自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	少しでも自立した生活を送って頂けるよう手摺等を設置、家具の配置など動線を考慮した環境づくりを心懸けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みんなの家

作成日：平成 29年 3月 17日

市町村受理日：平成 29年 3月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の思いや意向を更に把握したい。	思いや意向の把握に努める。	課題分析シートに興味嗜好の項目を追加し把握に努める。	3か月
2	26	モニタリングを介護計画の見直しに活かせるものになりたい。	サービス内容に沿った評価をする。	現行プランを活用し、サービス内容の1項目ごとに評価を行う。	3か月
3	35	地域住民の方々に避難訓練への参加をいただきたい。	地域住民の方々に避難訓練への参加をいただく。	地域住民の方々への呼びかけを引き続き工夫しながら行っていく。	1年
4	4	地域運営推進会議へご家族の参加をいただくとともに、参加いただけないご家族には議事内容を充実させ周知を図っていききたい。	地域運営推進会議へご家族の参加をいただくとともに参加いただけないご家族については議事内容の周知を図る。	ご家族の方々への呼びかけを引き続き工夫しながら行い、参加いただけないご家族へは議事内容を充実させ周知を図っていく。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。